

○ 経営目標設定の考え方

大阪府都市開発(株)

ミッション

対応方針

戦略目標【参考：中期経営計画の目標値】

○鉄道・物流両部門を通じ、サービスのさらなる向上に努めるとともに、公共輸送機関として欠くことのできない安全性を確保する。
また、安定した利益を確保するとともに、より強固な経営基盤を確立し、企業価値のさらなる向上を目指す。

1 旅客サービスの向上
お客様がより快適に、便利に利用できることを目指し、輸送需要への適切な対応を図りながら、きめ細かなサービスの導入等を進める。

2 安全対策の実施
鉄道事業の使命である安全を維持し、お客様に安心してご利用いただくため、運輸安全マネジメントの継続的改善、事故・災害等への対応力強化を図り、安全対策工事を着実に進める。

3 物流施設の提供
物流事業者のニーズを十分に踏まえた上で、高付加価値施設の整備、既存施設の計画的な改修を進め、テナントの信頼にに応えられる質の高い物流サービスを提供する。併せて大規模災害時対応を進める。

4 効率的経営の推進
事業環境の変化に迅速・的確に対応できるよう、設備投資や有利子負債を含むコスト削減を進め効率的経営を行う。

① CS 調査
・鉄道利用者満足度（鉄道のサービス[利便性・快適性・接遇等]の設問項目の全体評価）【3.3点[74%]（H22実績）→3.3点[74%]（H27）】

② 快適で利便性の高い鉄道輸送サービスの提供
・ICカード化率（ICカード利用者数/全改札通過人員数）【（参考）29%（H23実績）→33%（H25）】

③ 安全な鉄道輸送サービスの提供
・連続無事故【33年（H22実績）→38年（H27）】

④ 業界のニーズを捉えた物流施設の提供
・物流事業主要施設稼働率
【（参考）92%（H23実績）→94%（H25）】

⑤ 経営改善に向けたさらなる取り組み
・店舗賃貸率（経営資源の有効活用）
【（参考）92%（H23実績）→96%（H25）】

⑥ 財務体質の強化
・全事業純利益額
【16億円（H22実績）→20億円（27億円（H24.5見直し））（H27）】
・有利子負債残高
【192億円（H22実績）→105億円（66億円（H24.5見直し））（H27）】

⑦ 人件費の抑制
・総人件費
【（参考）31億円（H23実績）→30億円（H25）】

⑧ 企業価値の向上
・実質純資産額
【（参考）213億円（H23実績）→338億円（H25）】

法人名	大阪府都市開発株式会社
-----	-------------

中期経営計画に基づく基本方針(目標設定の考え方)

中期経営計画の概要

<p>中期ビジョン (法人が目指す中期の到達点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> -[安心]安全で快適な輸送サービスの追及と質の高い物流サービスの拡大に努める。 -[進化]時代や社会の変化に即応し、効率経営を追求する。 -[信頼]コンプライアンスを徹底し、地域への貢献や地球環境の保全に向けての活動に積極的に取り組む。 	<p>中期経営計画名称 (計画期間) 公表先URL</p>	<p>「第二の創業期への挑戦」(H23~27 事業見通し) (H23~H27年度)</p>
----------------------------------	--	---------------------------------------	---

戦略	成果測定指標	単位	最終年度の到達目標※	目標達成のための活動事項
①CS調査	鉄道利用者満足度 (鉄道のサービス[利便性・快適性・接遇等]の設問項目の全体評価)	%	74	・サービス向上のための施設改善を進めるとともに、全社員を対象にCS向上研修を実施し、ハード・ソフト両面から利用者満足度の向上を図る。
③安全な鉄道輸送サービスの提供	連続運転無事故(有責)	年	38	・運輸安全マネジメント体制の推進を図るとともに、各種安全対策工事を実施する。 ・安全推進委員会、とりわけ現場における部会を毎月開催し、社内全体の安全意識を向上させる。
⑤財務体質の強化	全事業純利益額	億円	20 (27)	・事業の一層の効率化を図ることにより、利益確保に努める。
⑥財務体質の強化	有利子負債残高	億円	105 (66)	・低金利の状況にあっても、資金調達コストを考慮し、手元資金を有効活用して設備投資を実施することにより、有利子負債の削減に努める。

※()内は平成24年5月に実施した見直し後の数値

(参考)H25経営目標

I. CS(利用者満足度)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略	成果測定指標	単位	H25目標値	中期計画H25目標値	H25目標値設定の考え方 (数値の根拠)
①CS調査	鉄道利用者満足度 (鉄道のサービス[利便性・快適性・接遇等]の設問項目の全体評価)	%	76	74	・既に中期計画の目標値を達成しているが、ハード・ソフト両面からサービス向上の取組みを進め、平成24年度実績値を上回る。 ・昨年度から実施している高齢者、障がい者等に対する声掛け、サポート等を充実するため、案内係を各駅に配置する。
	CS向上研修の実施	回	6	—	・全部門を対象を拡げてCS向上研修を実施し、ハード・ソフト両面から利用者満足度の向上を図る。
②快適で利便性の高い鉄道輸送サービスの提供	ICカード化率 (ICカード利用者数/全改札通過人員数)	%	33	—	・ICカード全国相互利用への対応や駅務機器の更新により、ICカード利用者の増加を図る。
③安全な鉄道輸送サービスの提供	連続運転無事故(有責)	年	36	36	・運輸安全マネジメントの推進により、運転無事故を継続する。
	輸送安全に関する改善提案件数	件	15	—	・「ヒヤリ・ハット・キヤッチ運動」「現場提案制度」「OTK提案制度」の改善を図り、平成24年度件数(見込)を上回る。
	内部監査員の養成	名	20	—	・新たに3名の内部監査員を養成する。
④業界のニーズを捉えた物流施設の提供	物流事業主要施設稼働率	%	94	—	・物流事業者への積極的な営業活動により、平成24年度稼働率(見込)を上回る。

II. 財務(健全性・採算性)・効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

戦略	成果測定指標	単位	H25目標値	中期計画H25目標値	H25目標値設定の考え方 (数値の根拠)
⑤経営改善に向けたさらなる取り組み	店舗賃貸率 (経営資源の有効活用)	%	96	—	・空区画へのテナント誘致を図るとともに、空きスペースの活用による駅ナカ事業の拡大を図り、平成24年度稼働率(見込)を上回る。
⑥財務体質の強化	全事業純利益額	億円	24	17 (21)	・事業の一層の効率化により、平成24年度利益額(見込)を維持する。
⑥財務体質の強化	有利子負債残高	億円	107	128 (107)	・手元資金を有効活用し、新規借入は行わない。
⑦人件費の抑制	総人件費	億円	30	—	・新規採用の抑制、再任用による嘱託者の活用等により、正社員の人員削減に努め、平成24年度人件費(見込)を維持する。
⑧企業価値の向上	実質純資産額	億円	338	—	・収入の維持向上と事業の一層の効率化を図ることにより利益確保に努め、企業価値を向上する。

法人名

大阪府都市開発株式会社

24年度の経営目標達成状況及び25年度目標設定表

法人経営者の考え方 (平成25年度の課題と重点目標)	沿線人口の減少に伴う輸送人員の減少や、物流事業の環境変化、貨物量の減少など、当社事業は「市場」の縮小という転換期を迎えている。このような中、鉄道事業では引き続き安全運行の確保、旅客サービスの向上を図るとともに、将来の輸送需要減少に対応して効率的な車両運用ができるよう、車両の改造に着手する。物流事業では、積極的な営業活動を展開し施設の収益性向上を図るほか、流通センターの高度化に向けた検討を進め、テナントの信頼に応えられる質の高い物流施設の提供に努める。また本社部門では、自己資金を活用して有利子負債の削減を進め、より強固な経営基盤を確立することで企業価値の向上に努める。あわせて、民間企業として時代や利用者のニーズの変化等に一層的確に対応できるよう、研修の充実により人材の育成を図るとともに、年功を排除して評価主義を徹底する。 また今年度は、府による当社株式売却手続きが具体化することから、円滑に事務が進むよう会社として対応する。
---	---

I. CS(利用者満足度)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	H24 (H24)	H23実績	H24目標	実績	H25目標	戦略目標達成のための活動事項	
						実績(H24)				
①CS調査	鉄道利用者満足度 (鉄道のサービス[利便性・快適性・接客等]の設問項目の全体評価)		%	10	77.7	78	× 75.5	10	76	<ul style="list-style-type: none"> サービス向上のための施設改善を進めるとともに、全部門を対象を拡げてCS向上研修を実施し、ハード・ソフト両面から利用者満足度の向上を図る。 特にプラットホームの安全対策として、昨年度から実施している高齢者、障がい者等に対する声掛け、サポート等を充実するため、案内係を各駅に配置する。
	CS向上研修の実施		回	5	5	5	6	5	6	
②快適で利便性の高い鉄道輸送サービスの提供	ICカード化率 (ICカード利用者数/全改札通過人員数)		%	10	29	31	32	10	33	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年3月23日からICカードの全国共通化が開始するなど、ICカードのさらなる普及が期待されることから、多様なサービスの提供にも対応できるよう新機能を搭載した駅務機器の導入に着手する。
③安全な鉄道輸送サービスの提供	連続運転無事故(有責)		年	5	34	35	35	5	36	<ul style="list-style-type: none"> 運輸安全マネジメント体制の推進を図るとともに、各種安全対策工事を実施する。 安全推進委員会、とりわけ現場における部会を毎月開催し、社内全体の安全意識を向上させる。
	輸送安全に関する改善提案件数		件	5	14	14	14	5	15	<ul style="list-style-type: none"> 「ヒヤリ・ハットキャッチ運動」「現場提案制度」「OTK提案制度」等を通じ、現場からの改善提案を継続的に実施する。 社にとって有益と判断した提案については積極的に活用し、業務改善に取り組む。
	内部監査員の養成		名	5	15	17	17	5	20	<ul style="list-style-type: none"> 内部監査員(鉄道総合研究所主催による研修を受講し、専門的知識を有する社員)の養成を積極的に行い、社内の有資格者総数を増やして安全管理体制の充実を図る。
④業界のニーズを捉えた物流施設の提供	物流事業主要施設稼働率		%	10	92	92	93	10	94	<ul style="list-style-type: none"> 物流事業者の誘致に向けた積極的な営業活動を展開する。 高付加価値施設及び大規模災害時の物流拠点としての機能整備を図る。

II. 財務(健全性・採算性)・効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

⑤経営改善に向けたさらなる取り組み	店舗賃貸率 (経営資源の有効活用)		%	5	92	96	× 95	5	96	<ul style="list-style-type: none"> 沿線人口減少により旅客運輸収入が減少する中、空区画へのテナント誘致を図るとともに、空きスペースの活用による駅ナカ事業の拡大を図り、鉄道付帯事業の増収を図る。
	全事業純利益額		億円	10	14	19	24	10	24	
⑥財務体質の強化	有利子負債残高		億円	10	160	133	133	10	107	<ul style="list-style-type: none"> 資金調達コストを考慮し、手元資金を有効活用して設備投資を実施することにより、有利子負債の削減に努める。

【凡例】

- ・☆はH25からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・()はH25から目標とするため、参考として記入した実績値

II. 財務(健全性・採算性)・効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)								
⑦人件費の抑制	総人件費	億円	5	31	30	5	30	・減収傾向が続く中、新規採用抑制、再任用による嘱託者の活用等により、総人件費の抑制に努める。
					30			
⑧企業価値の向上	実質純資産額	億円	20	213	312	20	338	・収入の維持向上と事業の一層の効率化を図ることにより、利益確保に努める。 ・実質純資産額の算出は「前期末純資産額＋当期純利益－配当金」とする。
					318			

【凡例】

- ・☆はH25からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・()はH25から目標とするため、参考として記入した実績値

法人名	大阪府都市開発株式会社
-----	-------------

CS調査の実施概要

○平成24年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
泉北高速鉄道のサービス	アンケートの配布	泉北高速鉄道を利用されるお客様	2,500人 (アンケート配布枚数)	平成24年10月15日

CS調査実施後の改善事例
①CS向上研修の実施 ②ダイヤ変更の実施 ・上り最終列車の繰下げ(和泉中央23時25分発各駅停車中百舌鳥行きを増発) ・列車運行の均等化(和泉中央発16時～20時までの間、全ての駅において概ね6分間隔での列車運行) ③ICカード全国相互利用対応

○平成25年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
泉北高速鉄道のサービス	アンケートの配布	泉北高速鉄道を利用されるお客様	2,500人 (アンケート配布枚数)	平成25年10月

・CS調査 平成25年度目標(再掲)

戦略目標	成果測定指標	単位	H23実績	H24目標	H25目標値	H25目標値設定の考え方 (数値の根拠)
				実績(見込)		
①CS調査	鉄道利用者満足度 (鉄道のサービス[利便性・快適性・接遇等]の設問項目の全体評価)	%	77.7	78	76	・既に中期計画の目標値を達成しているが、ハード・ソフト両面からサービス向上の取組みを進め、平成24年度実績値を上回る。 ・昨年度から実施している高齢者、障がい者等に対する声掛け、サポート等を充実するため、案内係を各駅に配置する。
				75.5		

東北高速鉄道 お客様アンケート調査**【アンケート調査にあたってのお願い】**

いつも東北高速鉄道をご利用いただきましてありがとうございます。

このアンケート調査は、東北高速鉄道に対するお客様のご意見・満足度等をお聞きし、より質の高いサービスの提供を目指すために実施するものです。何卒、アンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

■ アンケート調査用紙の回収

➤ 東北高速鉄道の各駅窓口にて駅係員が回収いたします。

(深井駅、泉ヶ丘駅、梅・美木多駅、光明池駅、和泉中央駅)

※ 中百舌鳥駅および南海電鉄の各駅では、回収しておりませんので、ご注意ください。

■ ご回答の期限

➤ 平成24年10月22日(月)

※ 上記期限までにご回答いただいた方には、回収時に粗品をお渡しいたします。

■ お問い合わせ先

➤ 大阪府都市開発株式会社 経営企画室 お客様アンケート係

TEL : 0725-57-3278 (平日 9:10~17:40)

Q1. お客様ご自身についてお尋ねします。該当するものに○をつけてください。

Q1-1 年齢を教えてください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代~

Q1-2 ご職業を教えてください。

1. 会社員・公務員 2. 自営業 3. パート・アルバイト 4. 学生

5. その他

Q3-8	電車の発着時刻は正確である	5	4	3	2	1
Q3-9	電車の混み具合は適当である	5	4	3	2	1
Q3-10	電車の乗り心地はよい（揺れ・騒音は気にならない）	5	4	3	2	1
Q3-11	電車の座席や車内空調は快適である	5	4	3	2	1
Q3-12	電車内の案内放送は聞き取りやすく、わかりやすい	5	4	3	2	1
Q3-13	駅構内や電車内は清潔である	5	4	3	2	1
Q3-14	エレベーターや多機能トイレ等、駅のバリアフリー化が進んでいる	5	4	3	2	1
Q3-15	駅の時刻表や行先案内表示（発車時刻・乗り場などの案内）はわかりやすい	5	4	3	2	1
Q3-16	駅の案内放送は聞き取りやすく、わかりやすい	5	4	3	2	1
Q3-17	きっぷや定期券は買いやすい	5	4	3	2	1
Q3-18	駅係員の接客態度は良い	5	4	3	2	1
Q3-19	乗務員の接客態度は良い	5	4	3	2	1
Q3-20	運賃は上記のサービス内容に対して妥当である	5	4	3	2	1

Q4. 泉北高速鉄道の乗車券についてお尋ねします。該当するものに○をつけてください。

Q4-1a 泉北高速鉄道で最もよくご利用される乗車券はどれですか。

1. 普通券（きっぷ）
2. スルッとKANSAIカード
3. 回数券
4. 定期券（磁気定期券）
5. IC（PiTaPa）定期券
6. ICカード（PiTaPa・ICOCAで定期券は利用しない）
7. その他（ ）

1b① 「4. 定期券（磁気定期券）」、「5. IC（PiTaPa）定期券」とご回答された方にお尋ねします。定期券発行機能付自動券売機（黄色の券売機）で定期券を購入されたことがありますか。

1. 購入したことがある
2. 購入できることは知っているが、購入したことはない
3. 購入できることを知らない

1b② 「1. 購入したことがある」とお答えの方にお尋ねします。

定期券発行機能付自動券売機（黄色の券売機）を利用された理由をお聞かせください。

1. 始発から午後11時まで購入することができるから
2. 申込用紙記入が不要であるから
3. タッチパネル操作で簡単に購入できるから
4. PiTaPa決済できるから
5. その他（ ）

Q5. 泉北高速鉄道に対して今後さらに取り組んで欲しい点を3つ選択し○をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1. 電車の運行本数の増発 | 2. 通勤特急など新たな種別の電車の導入 |
| 3. 始発電車の発車時刻の見直し | 4. 最終電車の発車時刻の見直し |
| 5. 他社交通機関との連絡の利便性の向上 | 6. 電車運行の安全性の向上 |
| 7. 電車の乗り心地の改善（振れ・騒音など） | 8. 電車の快適性の向上（座席・車内空調など） |
| 9. 乗車時の混み具合の改善 | 10. 駅構内や車内の清潔さの維持・向上 |
| 11. 駅施設の利便性の向上 | 12. 駅舎内店舗の充実 |
| 13. 駅係員、乗務員の接客態度の改善 | 14. お客様の乗車マナー向上への取り組み |
| 15. 広報活動（情報誌ブルーライナー・ホームページなど）の充実 | 16. 各種イベント活動（沿線ウォーキング・車庫見学会・駅コンサートなど）の充実 |
| 17. 泉北ニュータウンの活性化への取り組み | 18. 地球環境への配慮 |
| 19. 運賃 | 20. その他 [] |

Q6. 最後に、泉北高速鉄道についてのご意見等をお聞かせください。

アンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

■ 泉北高速鉄道の各駅窓口にて駅係員が回収いたします。

（深井駅、泉ヶ丘駅、梅・美木多駅、光明池駅、和泉中央駅）

※中百舌鳥駅および南海電鉄の各駅では回収していません。

■ ご回答の期限は平成24年10月22日（月）までです。

※上記期限までにご回答いただいた方には、回収時に粗品をお渡しいたします。

【目標値未達成の要因について】

法人名	大阪府都市開発株式会社
24年度の 成果測定指標	鉄道利用者満足度
24年度の目標値	78%
24年度目標の達成状況 (見込)	75.5%
未達成の要因	<p>本指標は CS 調査における全体評価「泉北高速鉄道のサービスには満足である」に対する評価結果である。</p> <p>未達成となった要因を個別評価から分析すると、南海高野線に乗り継ぐお客様の運賃割高感や、南海高野線との接続のため、当社線の最終電車が早い時刻に発車することに原因があると思われる。</p>
今後の改善方策	<p>個別評価については、「発車時刻の正確さ (98.0%)」「駅構内や電車内の清潔さ (91.9%)」「電車の乗り心地 (90.0%)」などで高評価を得ているが、「運賃 (17.2%)」「最終電車の発車時刻 (49.2%)」などの評価が低くなっている。</p> <p>また前回 (23 年度) 調査との比較では、「電車の混み具合 (+3.3%)」「運賃 (+2.0%)」など 10 項目で評価を上げている一方、「始発電車の発車時刻 (▲2.5%)」「座席や車内空調 (▲1.8%)」など 9 項目で評価を下げている。</p> <p>平成 24 年 11 月 23 日実施のダイヤ改正では、上り最終電車の発車時刻を繰り下げた (地下鉄のみの接続)。このほか、施設の維持改善を引き続き進めるとともに、CS 向上研修を実施して接客・接客技術の向上を図っていく。</p> <p>なお、旅客数の動向を見据えて車両の短編成化 (10 両→8 両)、また、10 月には消費税改定に伴う運賃改定申請も控えており、評価へのマイナス影響を想定している。</p>

【目標値未達成の要因について】

法人名	大阪府都市開発株式会社
24年度の 成果測定指標	店舗賃貸率
24年度の目標値	96%
24年度目標の達成状況 (見込)	95%
未達成の要因	<p>平成 24 年7月に梅・美木多駅で1区画の解約により空区画が発生し、年度内に新規テナントを誘致できなかったことにより未達となる。</p>
今後の改善方策	<p>平成 24 年度中に空区画となった梅・美木多駅については、現在、新規テナント候補と入店に向けた調整を進めており、25年6月を目途に賃貸借契約を締結する予定。</p> <p>このほか、24年度を通じて空区画であった深井駅1区画についても、25年4月を目途に賃貸借契約を締結予定。</p> <p>なお、定期券売場跡地の空きスペースについて、店舗に転用可能なものはテナント誘致に向け積極的に営業活動を行った結果、和泉中央駅には、平成25年5月よりカフェ・ベーカリーが開業することとなった。光明池駅跡地についても、入居に向けた交渉を進めていたが、成約に至らず、営業活動を継続している。</p>

【H24年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について】

法人名	大阪府都市開発株式会社
成果測定指標	CS向上研修の実施
24年度実績値（見込）	6回
25年度目標	6回
目標達成のための活動事項	平成25年度は、引き続き鉄道現場部門の管理監督者に対し、部下（駅係員、乗務員）にCS向上を指導するための能力を習得させる『リーダー養成研修』を実施するほか、乗務員、駅係員の更なる接客表現及び接客意識の向上を目的とした『ブラッシュアップ研修』を実施するなど、研修内容の質的な充実を図る。また、昨年度より配置した駅案内係員のサービス拡充（丁寧な利用案内、乗降時の介助など）のための研修を実施する。
法人の活動事項を全く行わない場合、想定される数値（水準）	
考え方 （中長期のトレンド等）	<p>旅客サービス向上のための施設改善等を進めるだけでなく、鉄道現業部門から管理部門までを対象に、各部門に応じたCS研修を実施する。</p> <p>鉄道現場部門：接客技術、CS意識の向上 管理部門：お客様視点への意識改革を促す</p>

【H24年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について】

法人名	大阪府都市開発株式会社
成果測定指標	全事業純利益額
24年度実績値（見込）	24億円
25年度目標	24億円
目標達成のための活動事項	<p>平成 25 年度は、減収傾向の中さらに動力費（電気料金）の負担増など収支の悪化要件があるが、より一層の経費節減、収益拡大に努め、利益確保に努める。</p> <p>なお、建設中の北大阪トラックターミナル物流センターは 26 年 3 月からの稼働を見込んでいるため、25 年度は 1 カ月分の賃貸料収益 45 百万円のみを予定している。</p>
法人の活動事項を全く行わない場合、想定される数値（水準）	17億円
考え方 （中長期のトレンド等）	<p>当社は昭和 40 年の創業以来、高度経済成長に支えられた右肩上がりの事業環境下で成長を遂げてきた。しかし、沿線人口の減少、少子高齢化による旅客運輸収入の減少、物流事業環境の変化などの要因により、収益の減少傾向に陥っている。このような事業環境の中、鉄道事業では、輸送需要に合わせ、適切なコスト管理で確実に利益を生み出す経営基盤の確立に取り組む。また、物流事業では、立地優位性を生かした積極的な営業活動を展開するとともに、流通センターの高度化に向けた検討を進める。</p>

【H24年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について】

法人名	大阪府都市開発株式会社
成果測定指標	総人件費
24年度実績値（見込）	30億円
25年度目標	30億円
目標達成のための活動事項	平成 25 年度は、お客様の安全性及び利便性の更なる向上を目的とした駅案内係（パート）のサービス拡充や運転士養成など総人件費の増加要因があるが、新規採用抑制、再任用による嘱託者の活用等により、総人件費の抑制に努める。
法人の活動事項を全く行わない場合、想定される数値（水準）	当社の場合再任用社員は、正社員と全く同じ業務内容・労働時間で勤務しており、仮に正社員に振り返ると、数千万の費用増が見込まれる。（平成 25 年度当初：再任用社員 31 名）
考え方 （中長期のトレンド等）	経営状況の変化に対応し、グループ全体の経営資源（資金、人材等）をさらに活用することが求められている。効率的経営に向け、組織運営体制のスリム化を進めていく。